

阿賀野川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～会津から越後まで流域一体となった被害軽減に向けた治水対策の推進～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、阿賀野川水系においても事前防災対策を進める必要があることから、以下の取組を実施していくことで、国管理区間の阿賀川においては戦後最大の昭和22年9月洪水と同規模の洪水を、国管理区間の阿賀野川においては戦後最大の平成23年7月新潟・福島豪雨と同規模の洪水をそれぞれ安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。



■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、浚渫、河道拡幅、堤防整備、堤防強化、水衝部対策、横断工作物新築・改築、護岸整備、宅地嵩上げ 等
- ・砂防関係施設の整備
- ・森林整備、治山対策、林道整備、溪間工（治山ダム）、山腹工整備
- ・計画目標1/10雨水貯留施設、雨水管、雨水ポンプ場整備、ポンプ施設増強
- ・開発行為に伴う貯留施設整備、雨水貯留・学校グラウンド等浸透施設の整備による流出抑制、適切な管理
- ・学校グラウンド・貯留浸透施設の適切な管理
- ・雨水浸透ます、貯留タンク設置への助成金交付事業
- ・既存樋門ゲートの無動力化
- ・田んぼダム取組支援、取り組み済の地区での農地関係者連携し適切な管理、
- ・土地区画整理事業における水路の整備
- ・ため池堰堤耐震対策
- ・防災重点農業用ため池の整備
- ・既存ダム等32ダムにおける事前放流等の実施、体制構築 ※参考資料参照（関係者：国、福島県、新潟県、東北電力(株)、電源開発(株)、土地改良区など）

■被害対象を減少させるための対策

- ・立地適正化計画の策定及び見直し等検討
- ・民間等の新規開発事業における雨水流出抑制施設の検討
- ・多段階な浸水リスク情報の充実

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラ、量水標等の整備及び情報提供
- ・浸水想定区域、ハザードマップの作成・公表
- ・行政区へのハザードマップ説明。マイ・タイムラインの普及啓発・作成支援
- ・親子防災講座、自治会防災塾、小中学校出前講座、まるとまちごとハザードマップなどによる住民・教育機関への防災啓発
- ・土砂災害警戒区域等の周知、土砂災害警戒情報の精度向上
- ・小中学校における水害・防災教育の実施
- ・要配慮者施設への避難確保計画作成支援
- ・自主防災組織の充実
- ・国・県・市が連携した水防訓練の取組、危険箇所合同巡視
- ・内水被害想定箇所での排水ポンプ車設営訓練
- ・内水常襲地への排水ポンプ整備、設営訓練
- ・防災FM、防災メールの整備、SNSによる情報発信強化
- ・自治体独自の水災害情報共有システム構築・活用
- ・水害リスクの高い区間の監視体制強化
- ・水害リスク情報空白域の解消
- ・通信事業者への映像情報提供

■グリーンインフラの取り組み

詳細次ページ

凡 例
浸水範囲(戦後最大規模に対する氾濫解析)
大臣管理区間

※本図の浸水範囲は大臣管理区間における氾濫によって生じる浸水範囲を示しており、大臣管理区間外の氾濫による浸水範囲は含まれていません。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

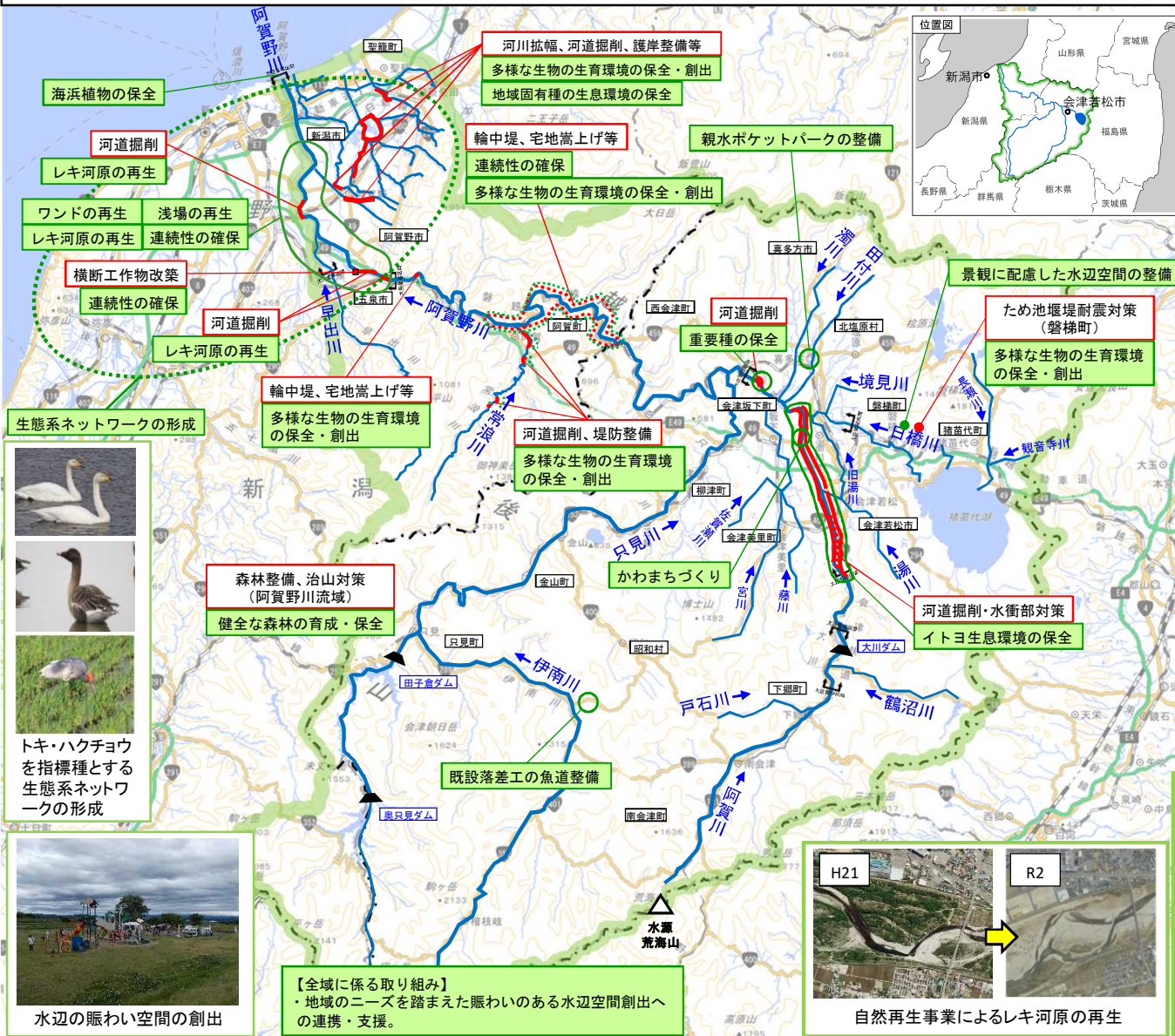
阿賀野川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】

～会津から越後まで流域一体となった被害軽減に向けた治水対策の推進～

●グリーンインフラの取り組み 『大河が織りなす多様な自然環境の保全・再生と、豊かな自然環境を活かした地域活性化』

○阿賀川では、礫河原が形成され、礫河原の水域にはイトヨ、陸域にはカワラハハコなど河原環境に依存する植物が生息しており、阿賀野川では、河口部の広大な水面と、レキ河原、ワンド等が存在しており、砂丘により生まれた越後平野には、ラムサール条約湿地に認定された佐潟や瓢湖をはじめ多くの潟湖が存在している。

○大河が織りなす多様な自然環境を保全・再生し、豊かな自然環境を活かした地域活性化を目指し、今後概ね20年間でレキ河原の再生や大型水鳥のねぐらや餌場環境の整備を行うなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



●自然環境の保全・復元などの自然再生

- ・阿賀野川の原風景であるレキ河原の再生
- ・魚類のゆりかごとなるワンドの再生・維持
- ・健全な森林の育成・保全

●生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成

- ・ハクチョウのねぐら、サギ類の採餌場となる浅場の創出
- ・餌場環境となる堤内地との連続性の確保
- ・生態系ネットワークと連携した観光振興

●治水対策における多自然川づくり

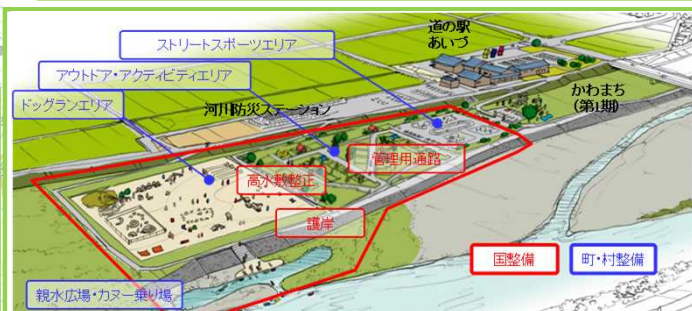
- ・多様な生物の生育環境の保全・創出
(イトヨ生息場所の保全、重要種の保全、海浜植物の保全)
- ・河川景観の保全
- ・既設落差工の魚道整備

●魅力ある水辺空間・賑わいの創出

- ・かわまちづくりによる水辺の賑わい空間創出
- ・親水ポケットパークの整備
- ・景観に配慮した水辺空間の整備

●自然環境が有する多様な機能活用の取り組み

- ・子供を対象とした河川環境学習
- ・地域住民と協働した水生生物調査
- ・河川協力団体による啓蒙活動
- ・地元団体と協働した河川美化活動
- ・水辺プラザ周辺の利用促進
- ・森林・林業教育の実施



凡 例

大臣管理区間



治水メニュー



グリーンインフラメニュー



国整備



町・村整備



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

阿賀野川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～会津から越後まで流域一体となった被害軽減に向けた治水対策の推進～

- 阿賀野川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する
 - 【短期】 氾濫被害が甚大となる盆地部、低平地での重大災害を防ぐため、堤防整備や河道掘削を実施。
山間部から低平地を抱える流域の水災害リスクの特性を踏まえ、ハザードマップの整備やマイタイムライン・避難確保計画作成支援、防災講座による啓発活動、水位計・カメラの設置、防災関連通信整備・運用による避難体制強化を実施。
 - 【中期】 扇頂部での流下能力不足解消、低平地での氾濫対策を図るため、横断工作物の改築や河道掘削を実施。
 - 【中長期】 河川での堤防強化、山地部での砂防、治山・森林整備、盆地部・低平地での河川・下水道事業を実施し、流域全体の安全度向上を図る。

【ロードマップ】 ※スケジュールについては、今後事業進捗によって変更となる場合があります。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防整備、堤防強化、河道掘削、宅地嵩上げ	阿賀川河川事務所、阿賀野川河川事務所、福島県、新潟県			
	橋梁改築・逆流防止柵門設置	阿賀野川河川事務所			
	横断工作物改築	阿賀野川河川事務所			
	阿賀川全域における水衝部対策	阿賀川河川事務所			
	砂防関係施設の整備	阿賀野川河川事務所、福島県、新潟県			
	森林整備・治山対策	会津森林管理署、下越森林管理署、福島県、新潟県、森林整備センター等			
	雨水貯留管・ポンプ場の整備	新潟市 等			
	雨水貯留・浸透施設を備えた学校施設整備	会津若松市 等			
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画の策定及び見直し等検討	新潟市、五泉市、阿賀野市 等			
	民間等の新規開発事業における雨水流出抑制施設の検討	会津若松市 等			
	多段的な浸水リスク情報の充実、水害リスク空白域の解消	阿賀川河川事務所、阿賀野川河川事務所			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	機器管理型水位計、簡易カメラの設置、浸水想定区域の作成・公表	阿賀川河川事務所、阿賀野川河川事務所、福島県、新潟県			
	ハザードマップの作成・公表、避難確保計画、マイタイムラインの作成支援、防災講座 等	会津若松市、喜多方市、新潟市、阿賀野市、五泉市、新発田市 等			
	防災行政無線、防災ラジオ、エリアメール、あんしんメール等整備・配信	磐梯町、新潟市、阿賀野市、五泉市、新発田市、阿賀町 等			

気候変動を踏まえた、
更なる対策を推進

【事業規模】

■河川対策

全体事業費 約1, 275億円

対策内容 堤防整備、河道掘削、 堤防強化、護岸整備、宅地嵩上げ 等

■砂防対策

全体事業費 約394億円※1

※1：飯豊山系直轄砂防事業及び滝坂地区直轄地すべり対策事業として

■下水道対策

全体事業費 約121億円

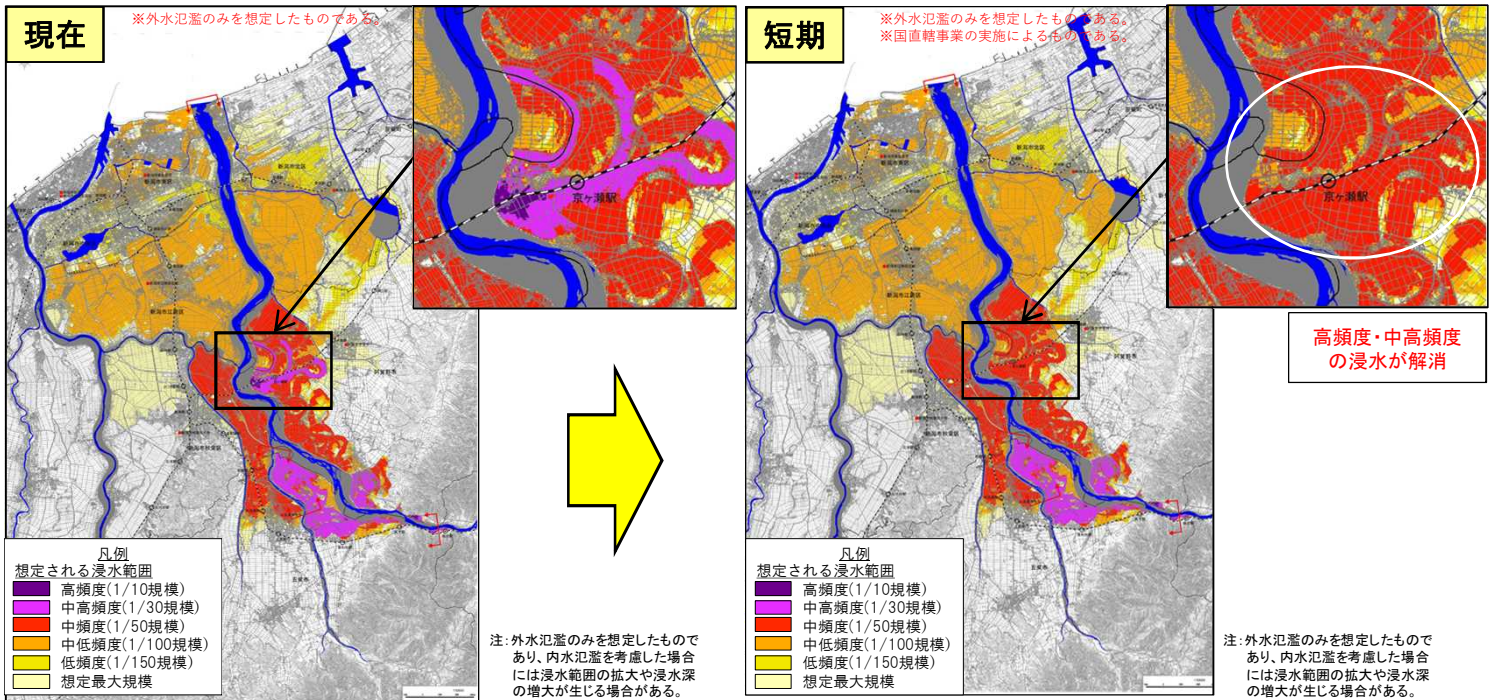
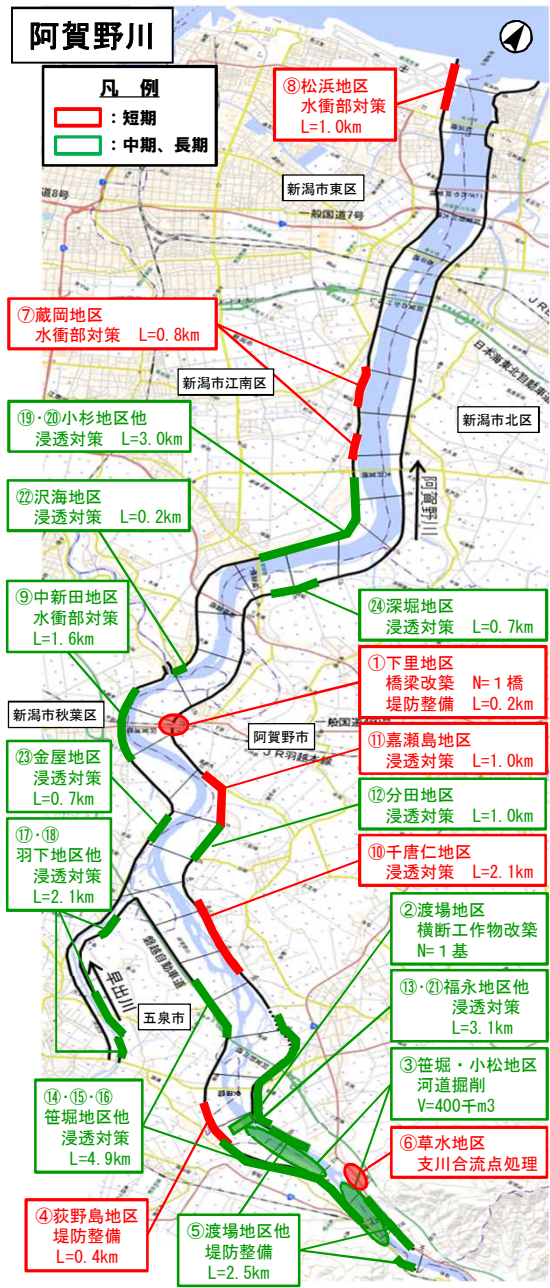
対策内容 雨水貯留施設の整備

阿賀野川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～会津から越後まで流域一体となった被害軽減に向けた治水対策の推進～

阿賀野川では、羽越本線洪水防止連携整備及び藤戸川合流点処理の完了により、中流域では戦後最大（平成23年新潟豪雨）と同規模を安全に流下させることが可能

短期整備（5か年加速化対策）効果：河川整備率 約87.7%→約88.3%



区分	区間	対策内容	市町村	地区名	工程		
					短期(R3→R7)	中期(R8→R17)	長期(R18→R27)
氾濫をできるだけ防ぐ、減らすための対策	渡場床固下流	堤防整備	阿賀野市	①下里地区	100%	100%	100%
		横断工作物改築	阿賀野市	②渡場地区	100%	100%	100%
		河道掘削	阿賀野市	③菅堀地区	100%	100%	100%
		堤防整備	五泉市	④萩野島地区	100%	100%	100%
			阿賀野市	⑤渡場地区	100%	100%	100%
			五泉市	⑥馬下地区	100%	100%	100%
	渡場床固上流	支川合流点処理	阿賀野市	⑦草水地区	100%	100%	100%
			新潟市	⑧蔵岡地区	100%	100%	100%
			新潟市	⑨中新田地区	100%	100%	100%
		水衝部対策	阿賀野市	⑩千唐仁地区	100%	100%	100%
			阿賀野市	⑪嘉瀬島地区	100%	100%	100%
			阿賀野市	⑫分田地区	100%	100%	100%
		浸透対策	新潟市	⑬福永地区	100%	100%	100%
			五泉市	⑭馬下地区	100%	100%	100%
			阿賀野市	⑮菅堀地区	100%	100%	100%
			新潟市	⑯高山地区	100%	100%	100%
			五泉市	⑰羽下地区	100%	100%	100%
			五泉市	⑱三本木地区	100%	100%	100%
			新潟市	⑲小杉地区	100%	100%	100%
			新潟市	⑳横越地区	100%	100%	100%
			阿賀野市	㉑新保地区	100%	100%	100%
			新潟市	㉒沢海地区	100%	100%	100%
			新潟市	㉓金屋地区	100%	100%	100%
			阿賀野市	㉔深堀地区	100%	100%	100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

阿賀野川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～会津から越後まで流域一体となった被害軽減に向けた治水対策の推進～

阿賀川では、短期整備期間において、下流狭窄部（長井地区）における河道掘削及び上流部（三本松）の河道掘削完了に伴い、戦後最大規模の洪水に対し阿賀川全区間をHWL以下で流下させることが可能。また、高頻度（1/10）で浸水被害が想定される箇所において水衝部対策を実施し、会津若松市及び会津坂下町への浸水被害を軽減することが期待される。

短期整備（5か年加速化対策）効果：
 河川（量的）整備率 約97%→約100%
 河川（水衝部対策）整備率 約84%→約88%
 （※整備計画目標流量に対する整備率）

※国直轄事業の実施によるものである。

①長井地区
（河道掘削）

③浜崎・下遠田地区
（浸透対策）

④湊地区
（浸透対策）

⑤阿賀川管内
（水衝部対策）

⑤阿賀川管内
（水衝部対策）

⑤阿賀川管内
（水衝部対策）

②三本松地区
（河道掘削）

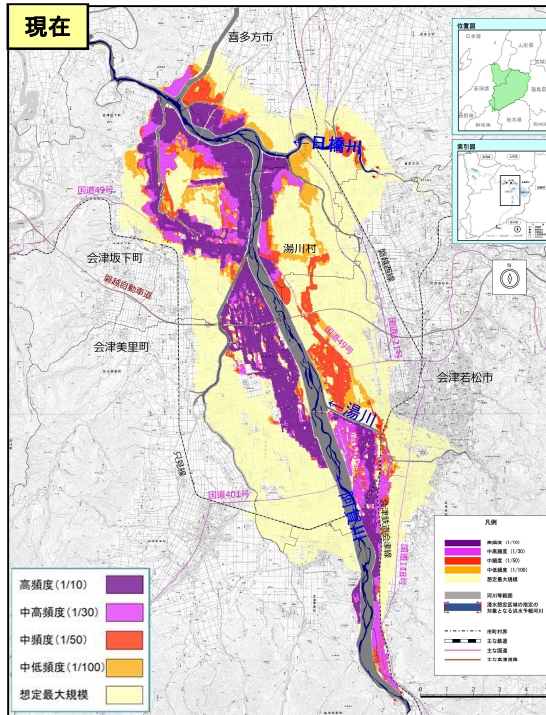
福島県

凡 例

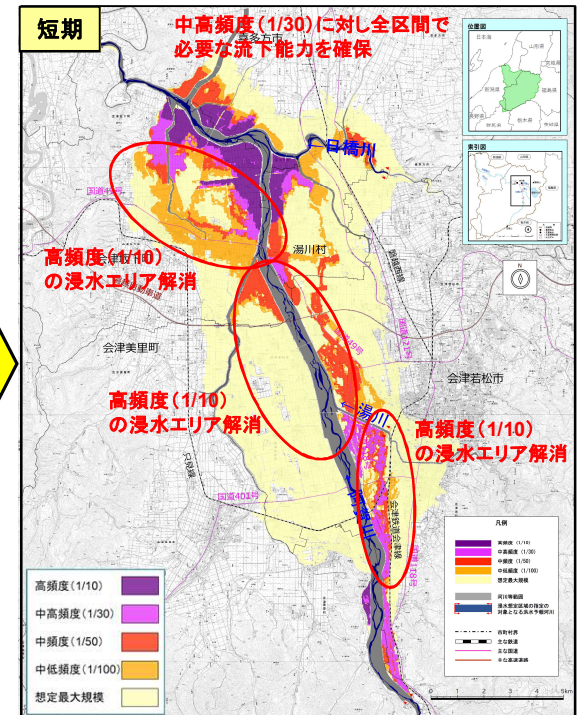
□：短期
 □：中期、長期

※量的整備においては、整備計画目標流量に対し流下能力が不足する箇所において対策を実施する。

※水衝部対策においては、「急流河川における洗掘・側方侵食に対する安全評価方法（案）」に基づき安全度評価を行い要対策箇所を抽出している。



注：外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。



注：外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。

区分	本支川	対策内容	市町村	地区名	工程		
					短期 (R3～R7)	中期 (R8～R17)	長期 (R18～R27)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	阿賀川	河道掘削	喜多方市	①長井地区	100%		
		河道掘削	会津若松市 会津美里町	②三本松地区	100%		
	日橋川	浸透対策	喜多方市	③遠田地区（下遠田）	100%		
		浸透対策	湯川村	④浜崎地区（湊）		100%	
	阿賀川	水衝部対策	会津若松市 喜多方市 会津坂下町 会津美里町 湯川村	⑤管内			100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

阿賀野川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～会津から越後まで流域一体となった被害軽減に向けた治水対策の推進～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率

農地・農業用施設の活用



流出抑制対策の実施



山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の 25箇所

立地適正化計画における
防災指針の作成



避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定 18河川

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保 洪水 1693施設

数値の更新作業中（令和4年度中に更新版を公表予定）

（概ね5か年後）

（令和4年度完成分）
※施工中 10施設

区域 54団体
（令和4年9月末時点）

個別避難計画 10市町村
（令和4年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

■洪水氾濫対策

・羽越本線洪水防止連携整備事業
（阿賀野川河川事務所）



事業後 事業前

鉄道橋と堤防との交差点において計画上の堤防高さが不足し、堤防から越流する危険性が最も高い箇所となっているため、危険箇所の解消に向けJR東日本と連携して整備事業を実施。

・排水樋管における無動力化改修工事
（阿賀川河川事務所）

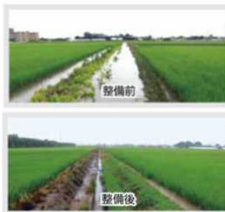


施工例

操作員の担い手不足の解消や異常洪水時における操作員の安全確保、負担軽減を目的に、樋管ゲートの無動力化（フラップゲート化）を推進。

■流域の雨水貯留機能の向上

・田んぼダムの取組面積の拡大と適切な管理の実施（新潟県）



貯留量を増やすため、田んぼから雨水流出量を減らすための調節板と田んぼの畔の整備を実施。また、関係部局、農地関係者が連携し取組面積の拡大に向けた普及・啓発と整備済みの田んぼダムの適切な管理を行う。

・公共施設における雨水貯留・浸透施設の整備（会津若松市）

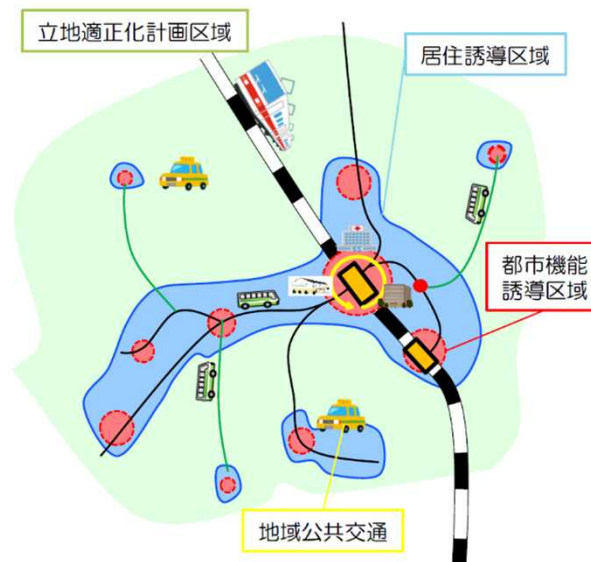


庁舎、公民館、市営住宅等の公共施設を新設する場合、雨水貯留施設などの整備を行う。

被害対象を減少させるための対策

■立地適正化計画の検討等

・立地適正化計画の策定及び見直し等検討
（会津若松市・新潟市・阿賀野市・五泉市）



気候変動の影響により頻発・激甚化する自然災害に対し、災害ハザード情報と都市情報を重ね合わせるなどきめ細やかな災害リスクの分析・都市防災上の課題を抽出を行い、災害に強いまちづくりに向け方策の検討を行う。

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

■防災意識の醸成・向上

・要配慮者利用施設や大規模工場等の自衛水防の推進（新潟県）



施設管理者を対象として、避難確保計画の作成方法を身につけてもらうための講習会を開催。

・防災リーダー養成講座の開催
（五泉市）



災害時に地域のためにリーダーとして活躍する人材を育成するため、町内会や自主防災組織等の代表者を対象に「五泉市防災リーダー養成講座」を開催。

■避難体制等の強化等

・「まるごとまちごとハザードマップ」活動にて浸水深の揭示による防災啓発（阿賀野市）



氾濫した場合に想定される浸水深（最大浸水深）を記載した看板を電柱に取付・揭示を実施。

・避難時に浸水が生じるケースを想定した垂直避難訓練の実施（会津若松市）



水害時における適切な避難行動の大切さを周知・啓発することを目的に、沿川の小学校を対象に垂直避難訓練を実施。

